



はじめに

がん患者会「いたわり」は患者さんが病気と向き合い前を向いて歩いていけるよう患者さん同士で支え合う会です。他の人はどうしてるのかな？と思ったら、この会報誌を手にとって読んでみてください。誰かのお役に立てることを願っています。

がん相談支援センター スタッフ一同



ポピーの広場(患者さんのお話)



皆様 こんにちは

がんを告知された時、大きな衝撃を受けやはり死を意識してしまいました。悲して泣いてばかり…。

その後は、前向きになって限りある命を生きているという気持ちを常に持っています。

だからこそ、日常の些細な事にも感謝をして幸せを感じる事が出来ました。

勿論、どんな治療もつらいし漠然とどうなるか分からない不安でたまらなくなります。

そんな時、「いたわり」患者会が発足しました。

一人でつらい気持ちを抱え込まないで年齢が違っても同じ病気、体験をしている人と分かち合ったり理解してもらおう事で勇気をもらいました。

ほんの少しでも楽しい時間、そして希望を感じましょね。 文:K. N



【今日は1周年記念日です！！】

今日2020/11/11は僕の膀胱の摘出1周年記念日です！

ちょうど1年前の今日、ロボット手術で僕の膀胱とその周囲は取り出されました。

手術の前と後では、生活の質(QOL)は大きく下がる、と説明されて行った手術でしたが、がん告知から手術までの2年半の方が生活に不便があり悩みが多かったので、術後のQOL低下はたいしたことないと感じています。術後は障害者に認定されましたが、今振り返ると術前の方がメンタル面で障がい者だったような気さえます(笑)

今は、4週間に1度、尿管留置カテーテルの交換をしています(昨日しました)が、その時たまに起こす腎盂腎炎対策に苦慮しています(今日、熱はでていません)。軽度であれば自宅療養で回復するのですが、入院となると1週間は退院させてもらえません。今の僕の1ヶ月は、カテーテル交換後の1週間は仕事の予定は入れず安静期間としているので、1ヶ月を3週間で過ごすスケジュールになっています。膀胱摘出後は「尿路ストーマにパウチ(人工膀胱)を付けているオストメイト」。尿意を感じないので、パウチに尿が溜まったら捨てる、その行為の繰り返し。盆休みのある日、車を運転しているとき渋滞に巻き込まれ、パウチが満タンになり腎盂腎炎おこして入院になったので、それ以降はパウチの先端にレッグバックつけての生活です。パウチは皮膚に直接くっつけているので、数日おきに定期的な交換が必要になります。カテーテル交換も腎盂腎炎発症リスクもパウチも死ぬまで付き合っていかなければなりません。生きて行くための選択でした。

⇒裏面へ続く



⇒ そんな僕を多くの方が支えて下さっています。感謝の念が絶えません。妻・職員・お客さま・医療関係の皆さま・患者会の皆さま。勤め人だったら今頃どうなっていたらどうかと、この仕事である事にも感謝しています。

毎日、家で朝を迎えられることに感謝と幸せを感じています。事務所に出勤できることに感謝と幸せを感じています。仕事に対する考え方やお客さまとの向き合い方も自分の中では大きく変わりました。仕事はまだまだ続けます。仕事が好きですしお客さまも大好きです。またこの命は親父やお袋の事があるので、あの人達より早くに逝くわけにはいきません。昨年退院後、お客さま全員に感謝の印をお届けさせていただきました。皆さまが今おられるおかげで僕はここに生きています、「有り難うございます」の気持ちです。端から見ると笑えてくる単なる自己満足の行為ですが、僕の中でのひとつの区切りでした。

これからもまだまだ迷惑かけながらの生活になると思います。多くの方が協力して下さい。手を差しのばして下さい。幸せ者です。生きてきた中で今が一番幸せを感じながら楽しく過ごしていると実感できています。ただそれに甘えること無くこれからも生きていきたいと思っています。いつか恩返しすることが出来ればその時には必ず！！

今日は僕が生まれ変わった一周年記念日です！！

文：H. A

4年前に、大腸がんと告知された時は、淡々と説明を聞くという感じで、意外と冷静だったと記憶しています。がんになってしまったことは変えられません。しかし、今後どうなるのか、だんだん不安になってきました。インターネットで同病で頑張っている人のブログを検索したり、がんに関する書籍を読んだりして気持ちを落ち着かせていました。抗がん剤治療中に、がんサロンの「いたわり」や「陽だまり」を知り参加してみました。今、感じている思いや疑問について、「それ、ある！ある！」、「自分だったらこうするかな」など、みんなで和気あいあい思いを出し合います。また、熱中していることや、旅行のこと、趣味のことなど楽しい情報交換もあり、あっという間に時間が経過し、また次回！とお開きになります。不安の原因は十人十色ですが、先輩患者の生の声を聞くことで悩んでいるのは自分だけじゃないと勇気が湧いてきます。自分の気持ちや思いを語れる場所と時間を持つことで前向きになりました。

文：A. A

12月「いたわり」開催のご報告と会報誌 掲載記事の募集



コロナ禍ですが、安全に開催することができました。みなさんの会話も弾み、楽しい時間を過ごすことができました。「いたわり」は、がん患者さんやご家族であればどなたでも参加可能です。是非、ご参加ください。また、会報誌へのエピソード投稿も絶賛募集中です！

〈投稿方法および問い合わせ〉

原稿をがん相談支援センターまでメール、郵送または直接ご持参ください。
原稿内容を確認し、審査の上掲載させていただきます。

大阪労災病院 がん相談支援センター

〒591-8025 堺市北区長曾根町1179-3

MAIL: nandemo@osakah.johas.go.jp

TEL: 072-252-3561